



# ～プノンペンをきれいに！ 小学生と清掃活動～ カンボジア・プノンペン都

作成：上下水道局海外事業課

発行日：令和2年10月7日



上下水道局海外事業課では、カンボジアで上水道だけでなく、**下水道分野**でも積極的な事業展開を進めています。

下水道は、家や工場で排出される汚水をきれいにするだけでなく、降った雨を川や海に流したりする役割を果たしており、**都市部の水環境を守っていくためになくてはならないインフラ**です。本市では、1960年代から計画的に下水道整備を進め、現在では**99.8%**と**日本有数の人口普及率**を誇っており、住みよいまちづくりに貢献しています。

1970年代の  
紫川現在の  
紫川

カンボジアの首都プノンペンは、人口 200 万人を超える大都市です。今後も人口増加が見込まれるにもかかわらず、**下水処理場はまだありません**。そのため、汚水や雨水は、街なかには張り巡らされた水路を流れ、川や湖などに流れ込みます。

都市のきれいな水環境を守り、また、大雨による浸水を防ぐためには、街なかの水路をきれいに保つことが重要ですが、残念ながら、**市民の環境に対する意識はまだ低く**、街を流れる水路や路上へのごみの投棄が後を絶ちません。(本シリーズの vol.2「プノンペンの川をきれいに！ 上下水道局×ワッティ&インディー」で紹介。)

上下水道局では、下水道整備の重要性を理解してもらうため、2017年から2019年にかけて**JICA 草の根技術協力事業\***を実施しました。その一環として、**地元小学校の協力を得て、小学5年生を対象とした環境教育授業や水路の清掃活動**など、市民への啓発活動に取り組みました。

小学校での環境  
教育授業小学校の周囲の  
水路の清掃活動  
を行う小学生

今後も下水道整備の必要性の理解を深めるため、市民への啓発事業を継続し、プノンペンの子もたちが大人になっても、“**路上や水路にゴミを捨ててはいけない。**”、“**自分たちの川は自分たちできれいにする**”と自覚できるよう、働きかけを行っていきます。

プロジェクト**開始時**の様子(2017年8月)プロジェクト**終了時**の様子(2019年12月)

※JICA 草の根技術協力事業とは、国際協力の意思のある日本の NGO、地方自治体、大学、民間企業等が、下記に掲げる3つの重要な視点を踏まえ、独立行政法人国際協力機構(JICA)から受託して実施する事業である。

- 日本の団体が主体的に行う、人を介した「技術協力」。
- 開発途上国の地域住民の生活改善・生計向上に役立つ事業。
- 日本の市民の国際協力への理解・参加を促す事業。